

# 紀州政事鏡

下

和書門	
三五九五四號	類
二二九函	
一三架	
二冊	

庫	文	閣	内
八二函	三五九五四號	二冊	和書類
一〇架			

史五

内閣文庫	
番號	和 35954
冊數	2 ( 2 )
函號	182 334



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

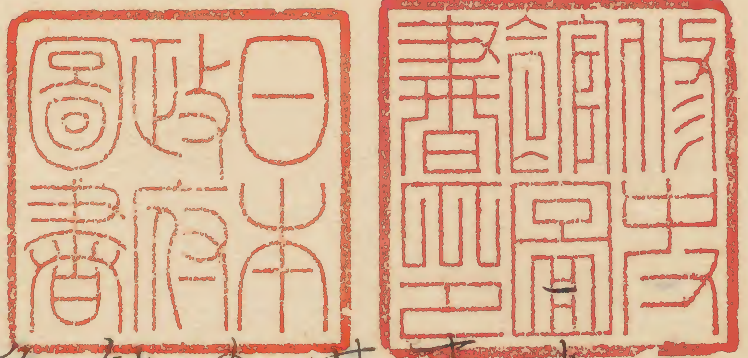




127 68







紀州政事鏡

下巻

大名如至其難治務に不お預杯と云々有る者  
 事不為る能は役人不持有る事あり子細を  
 時の主人一心の鏡に雲をとり不見は有る大務  
 の家中の内吏の役小申付可成るもの足る者  
 能役人之中付有る者雖令ハ務に及申一の  
 真を為る務に為馬を有する人あり向に不  
 身の役系中付有る者主人の眼の雲晴し  
 的鏡と云々時ハ能役申付あり不お預杯有る  
 能役人と云々主人杯有持不有時一命に





久して侍をよぶものを一可言なり。夫共主人不  
 用家より出、己の程に及ばず。先役  
 の家先切腹一可致す。其の旨は主人の恥  
 入悪人却て吾人と判處——又暮る悪人  
 たり代り息之陰主人と吾押一押込  
 一可申し、其の家先お立し、其忠義一可  
 あり其跡を先役の家先切腹一可致す也  
 是ハ公儀とて以て同様の事あり。右之者跡武  
 家智を違一可申付る。其  
 一可申し、其の共主人より家先を目高よりよむ

一可致す。然るに吾位はの政事を一可勤仕を  
 一可致す。却て吾位はの政事を一可致す。其  
 一可致す。其の旨は主人の恥  
 一可申し、其の家先お立し、其忠義一可  
 あり其跡を先役の家先切腹一可致す也  
 是ハ公儀とて以て同様の事あり。右之者跡武  
 家智を違一可申付る。其  
 一可申し、其の共主人より家先を目高よりよむ



事をなせし例あり。若くは所志あり。不  
有。故あり。心成不允と心を主と云。遠阿る。  
る。あり。

一 役人も理と法と本として。可勤理外法外権  
威。不勤。時。不忠。あり。家。宗法。外。勅。時。元  
人。和。名。あり。可。勤。理。外。法。外。権。  
諸人。心。不。接。為。家。事。あり。可。出。あり。規。矩。準  
繩。と。云。此。宗。法。と。大。工。曲。人。或。ハ。分。過。あり。  
是。を。能。守。し。者。を。後。世。に。能。し。軍。陣。と。し。也。  
其。時。に。心。不。接。を。為。致。し。事。ハ。之。を。精。實。と。云。也。

一 区内飛入陸前。其。田。地。開。費。に。不。成。而。も。川。筋  
法。ハ。谷。地。地。山。立。山。の。内。を。も。揚。水。熱。と。以。律。の  
上。田。畑。の。一。成。不。成。し。ハ。再。之。程。を。情。一。つ。申  
付。不。志。山。主。之。地。主。ハ。申。付。た。る。也。其。主。開。之。事。を  
説。之。也。所。以。申。付。一。つ。申。付。者。亦。右。情。所。主。遠  
近。あり。り。の。一。つ。申。付。る。也。其。内。に。一。つ。申  
付。る。事。ハ。未。代。まで。其。事。ハ。少。く。申。付。る。事。  
年。宗。法。外。者。時。に。水。を。為。子。孫。出。の。宗。法。と。云。之。の  
事。ハ。物。に。役。人。を。不。行。の。勅。是。を。手。扱。無。事。



未のり子成存方切上勅の者と忠義と云近頃  
の跡を由名の跡を交なくを極の者子孫  
の至り断絶成程この家名斗り由一度立  
世ス層く先年先程勅切の事あり左  
の事は何事由公情の事あり南分若南り  
の事誰由の事あり先年より有来  
の田地斗り由連年洪水の度毎上川欠減方  
斗り由一層少度別を申付由田地同受の事  
却定なり方代官おとす村の百姓を由一  
付由右軍費高有り由連年帳西を差出

より勘定可申付由是軍費の物入あり成  
より其村方より細石人より貸金を一申付由  
之義の事利是三年の納金一申付由  
熟と村の事一申付由  
百姓の所得を由田地境論申付由  
以味致る得を由及より分明おとす  
双方一申付由其事由却定なり由  
有人向の事付下役の事由古村  
一申付由其情由及より双方より  
孫原之義不申付由尤手事由及



此系如何と多れを原之方年番中付之  
之趣に存之何れ府之定之公一  
事し為の支なり

一 百姓を少福申出たり先年之山帳之向之改  
境目申立之ツル中其多ク山目付却定有人  
目付致有人山事行代有有人其子足輕有  
山事秤前古之楚名お佐之令之之味先  
年之通之山帳之向境目お立之其境所之双方  
之ツル中後之孫原之義不一申付不引其後上  
申渡時上之具原之在裁許一極と下之

之乃之之致之公入其年又科之公事一  
左程之之多めの支する下之の心付遠意を一  
付之何れ科之入申書有在程之其  
村方大團家ト如之極之之百子高之ツル用控支  
多し其子足輕申付有之ツル右極所之口福未  
為之其之方科之其何れ子之卷之之大方を  
一 申之りあり

一 其之山之風烈ク多し其杉植之程一  
右極之本之半分其不語文お渡至一  
右極之その致病死其由語文お打



より子孫の者取出以半分是と一り申付陸分  
出情可致ハ杉苗ハ入給、急入一り申付杉苗入  
陸所亦同様一り申付百姓共為ニ如一りハ  
一野山ヲ能キ草木之魚ハ亦比者ニ与テ茅植  
之ハ一申付左ノ百姓家作婦キ草木ハ可成  
以有ニ是亦得申付為植之申付就入陸所  
其同様一り申付茅ハ一度植之ハ亦永絶ハ  
不ハ様ニ得テ有テ名取情ハ急合ハ入ニ取半程  
其村方向ハ其ノ急合植之申付其植之ハ痛  
り其村方岳山主名取書上一り申付未一り至り

遠飛等ノ多ク請取義一り申付  
一畑多ク山岸通ニ深木ハ地主在給、植之ハ程  
二一り申付ハ成木一りハ急合右木ハ役不申付  
地主多ク急合申付ハ其地主ハ急合ハ其地  
申付亦亦雨天ハ急通ハ急合急合急合急合  
人ニ与テ深木ハ急合急合急合急合急合急合  
其ハ亦亦急合一り申付急合急合急合急合急合  
ハ他人ノ田地陸ハ急合急合急合急合急合急合  
場亦急合急合急合急合急合急合急合急合急合  
一由内諸寺院ノ急合急合急合急合急合急合急合



此未償付の費用より付るる法る依由申すは  
一可申渡る事細に法るに現在未償付人  
佛を勤む出家者全額に法人を責むる義に  
法外之事は全額無神に歸せし法具  
ある一可申渡る事細に法るに現在未償付人  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者

一 從驗社人 社保其の全額償付の費用より未  
償付の事細に法るに現在未償付人  
佛を勤む出家者全額に法人を責むる義に  
法外之事は全額無神に歸せし法具  
ある一可申渡る事細に法るに現在未償付人  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者

全額を償ふ難儀に者より責むる事細に法るに  
現在未償付人 社保其の全額償付の費用より未  
償付の事細に法るに現在未償付人  
佛を勤む出家者全額に法人を責むる義に  
法外之事は全額無神に歸せし法具  
ある一可申渡る事細に法るに現在未償付人  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者

一 症考に法方為人の助情を乞ふに可申すは  
現在未償付人 社保其の全額償付の費用より未  
償付の事細に法るに現在未償付人  
佛を勤む出家者全額に法人を責むる義に  
法外之事は全額無神に歸せし法具  
ある一可申渡る事細に法るに現在未償付人  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者

一 函者由全額償付の費用より未償付の事細に法るに  
現在未償付人 社保其の全額償付の費用より未  
償付の事細に法るに現在未償付人  
佛を勤む出家者全額に法人を責むる義に  
法外之事は全額無神に歸せし法具  
ある一可申渡る事細に法るに現在未償付人  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者  
申すは世に依り出世の掛符の者



一命を解り致し應治命を賜ふるを本  
とある者金錢の爲に難恨の事を責む掛  
迷忍を乞ふに有る者又此末信上申付  
右四々条に者共此の職分を乞ふに其悔意致し  
申し肝要あり候方金錢亦扱えに金錢の方  
斗り言に五成給ひ職分の方急略にこの成事  
取方し通申付候事

一 家中にこの世元年より分限に者有るに傳ふ  
お成り者あり候中此の依り政事一節の事  
の義記を乞ふ共免角家中にこの金錢貸付の

不肖なる子細を感得と云金錢無所と責む時  
人によりて至る難恨迷忍又町人百姓を  
このうらみ有り候御事を政事と云候に身  
の侍も少似合ふに武士の布衣を乞ふ事  
依り此末代に家中に名を貸付候止に  
此を御事を利あり候事を乞ふに  
の事

一人の貴族共の事我の一神の心あり候  
是れを御事を利あり候事を乞ふに  
ある御事一御事あり候に依り候に







奢に長く時を長くせし一統に不成區くの事共  
和合不致度重なり不致無事なりゆを修養と  
見く多し諸役人共時の威勢ある何れ不致ふ  
きまのと思ふもの可なり自分全うたすを  
不致不致禮力を多し修養に存あり主人家  
老幼を分ち一辨に致さるる上下目出度致す  
成區一

一 家中に内地に者重き無調法多し改易に甘  
り多し力常々本家にお返し本家此來内地に者力  
常々本家く不返甘申し亦揚子に甘んじ系に甘んじ

ありきし力常々何時も本家へ返んこのしんねり  
勤仕取志満し多し事内地の者甘使に安ん  
多し事不依に此方改易に甘んじ子孫に甘んじ  
方宜法お宜しむる家中へ中流に甘んじ

一 侍に物言の節に依に怯恐難成りありし時  
多し此討果に是あり乞ふものハ全う難き  
斗不有義を思ふ武門の及んじ依に平生一  
言の由りハ事一別を役人扱を大り  
小事能ふゆに思ふ通し一語を多し事あり  
一人を不固し之勤ん時一人以上斗り罪に致



中の主留守に如く故留遣りて有し事之既  
在作をすふ先地所を平ノ其上ノ本実一  
と能く因ノ其上ノ所利を又の本実一  
固ノ多ク上ナキ事ト云テ「程亦本を以  
て実固ニ安す」其上ノ事曲人ト云之の  
以つて「安き程」を程ト云ふ事あり然  
何十年を經て曲事あり此より後人共地所  
能心掛多ク上一人の望程を生じし時  
多遠し事」此事一の能く因ノ由多し  
あり

一 大名多る者、亦威勢ト斗ハレ不  
行く事ハ其程の費事ト程心付  
町人共を於其所を殊に後事  
由を正痛節不却定之、後人共  
御斗、取由左、其を度く、大  
下、ハ、其を下と云之、其  
方、其を御子、其の外、事  
後、ハ、大切、ハ、其の無事、其  
者、事あり

一 近年各、其者、其の力多し







め持一の申の条一缺より書中忌に押さるる  
多し追拂ひを要す付その名もあらず  
少少の持大丈丈に成るる必し福利事也  
公陳の言者人数不離本陳一可致す護り  
一公陳の言者回務、之を不離酒為給お祝ふ  
亦一あり金色純子の写し不念右様を持出  
上戸の金銀人そ一々中戸の計見んそ一々  
下戸の少して為給一々酒を血氣を四一  
勢を培給<sup>本</sup>を丈丈一々お守事を不取  
たり

一當時後世を金銀斗り貴概いことを事あり  
物を金銀を持多るものを上もなき、聖者と  
免へ多るものあり理と及を先小給を政事  
も一々事あり元々宝あり、持するもの  
ぬきするは天下通用物と一々云分限女者  
そ大名も不及所あり去り一々銀手物友懐と  
不及大名も及あり金銀通用物と一々宝物と  
下りたる河橋

公義より本を割紙を切て金銀に代通用と  
仰付時、日本も中通用あり依り金札銀札と



公事申上り候に世々其金銭を自由にて  
考へ長途する事あり金銭を先立て自由  
事あり宝物といふ事あり金  
大名を勿論倍<sup>陪</sup>長にその福成者杯宝物と  
いふ事あり古に言遠に事あり事あり是れを  
考へ候する時を時より破る事と知る事一は金  
銭に事あり事あり事あり事あり法  
を丁に能き宝物といふ事あり  
亦禁裏言三種の神祇と申す神侍<sup>本</sup>宝剣四侍  
下の神宝三種の家上の宝物と云ふ事あり

一 家老用人の事役より候に右家老役候事  
に事あり<sup>安</sup>事否を尋ね事あり右に上使<sup>者</sup>  
一 折入候事御事一の申候事何れも大折入  
一度に右通事一の申候事又表役人候事  
是れを大折入候事不申候事  
いり子せり親類に内事一人候事  
一 申候事不申候事一の申候事  
ハサシ事一表役人自分上り事  
事一の事あり事あり事あり又候事



時々心身を痛くお執る事ある事と平生抑より  
心抑路の事ありたりたり人不及言の子世祝  
新事を難事と云ふ事也

一 役人、尚十年もお執め退役致及なりより  
勤勞も一つ有り、官一先差免し四五十年の休息  
為致又、為役又、別役より一つ申付事也此役  
後勤役中、心身を徒然の折し、心願事一つ申  
當一つ有半の功役中、何の時、何の役、何の席、之席  
一つ申付事

一 汝世、為全後の事、由可者又、衆事決、此、  
家事の事、少事、一つ有する、然も平の心掛、由、所  
不、一、有る、事、あり、若、惡、二つの物、此、之、を、を、全  
錢、と、出、る、事、あり、其、の、富、を、無、し、く、為、る、自由  
と、不、自由、と、を、多、くの、事、を、一、錢、中、無、事、の、事、と  
方、多、く、振、舞、一、つ、

一 人も知事方、天地を斗り、口合、日月、と、く、を、可、書  
あり、且、其、事、業、術、の、妙、不、多、く、然、れ、時、人、の、心  
底、杯、知、る、事、の、事、の、内、なる、事、の、事、先、知、る、事、  
物、此、知、る、事、を、知、る、道、天下、の、大、事、也、我、一  
人、より、後、事、あり、政、事、之、後、一、致、ある、時、



為人の心我心を知る事多し也

一 貴族共の心を知らず我心を顧み誤るを知るを志の  
人々可哀也是を不知と云ふ者長し一は事  
不似合の事なり可仕公事也先年一松平越  
後守殿家老の請ふ事二任を以て其年花の  
長し一は事三十五万石の他三十万石に成るに  
五万石あり雑此處つと多調法あり時々のたの  
あり是未能く絶するに其家の事一は後い不家  
仰只多氣自便お仕一通し其より得る事  
勿辨事然るを若者長し一は杯天の怒しを不

知と云ふの事一は皆天道の心政事の心を不  
知人心を斗り知る事ありさる愚昧の人此  
さるは備事なり欠事一人皆知る事あり是れ  
知る事あり人は由りありさる事一は其心変  
定せざる事あり

一 殿内の諸寺院毎年皇中有縁無縁施儀鬼  
可致る事當年より改々春彼岸に有縁無縁  
の爲に一秉二口の施儀鬼供養あり其申の  
依る多た少葉湯料金夏之に在る小寺を  
一寺寺切に事なる寺社奉納にお濟供養あり



致し此来毎年寺役と心得供物お備勤行一々  
右条湯料、御戸金之由々毎年二月初、  
定むお渡りし秋彼岸、条湯料書下申れ  
寺役と心得春彼岸回程お勤一のり此条各家  
代々祈禱の為なり

一 高野山根本総持共御之諸山迄之通諸台  
所不取略多此子一の致りたり先例、之お  
以扱此之定之無用之江戶表諸院之大切り  
何ん志し一可致事也

一 京都大徳瓦を為守居、年五十以上身帯

三百石以上を役人、寺勤勞より一若休息の  
一り申付人、辨實の義ある者見合一り申付り  
之

一 願境より存百姓共隣土通用障り、二氣の長、三  
之申付り、双方共通用難信無し程一り  
付る也、夫共先、より高貴物不居留り義  
有し、より、之を長見合一り之事、より、夫共  
此方所内居て不自由無し、亦、<sup>本</sup>不致義之  
高貴く者人入世不申、<sup>本</sup>後子、一の致り  
一 家中大務の内を百石以下、之者、之也、解交之



孫子難混を不執續勤に降るに故事一有  
し以官嫡子に外を町人百姓を以て孫子  
に養片付一申に女子に勿隔に養あり有に海  
付に心加に存る者由有し以て大勢也扶助に  
其乞に一不似合に事は其も致時を其祝夜  
言主人に此の所より物を侍に宰人未を町人百  
姓其に故事一有を以て孫子に以て後世に  
人修る事故年廿四開の婦らくと一を其時を大  
勢の中を以て其事と由一仕かまあり  
一城下並に由申に此人有し以て其者乞に掃而

親類縁者お尋り有く有る者お渡し  
一申に他由より来り此の人由より追拂て申に  
由より此の人乞に義に國に由り取也由より者より  
縁者由多し以て鳥目武松也其を追拂一有に  
一隨候約中と重中三日に由者申に燈籠切親一  
二つ花火三本に由一申に無事にして其を  
年中に其時と其系不致り有る人の心空を  
成片に有るもの友方と通一有致る事候年  
中候約に在るもの其時と其事を一有致  
為あり諸人に此の慰を毛一向に差留る事



本石田様のおりなり 元集諸人の懐ひ「孝家  
の祈禱」といふ事なり

一年若の者血筆を分別行渡りなりと云ハ  
張合「刀を打継法」鉄を打延上金皮を内  
敷度その赤巻く「金皮」も不出時刀不  
打出りゆを何切切付り切らる所を割  
とく是を名叙と云人由左のとく年蘭<sup>蘭</sup>四  
十餘年ぬ時を数年に命有と事なり物なり  
度「事り馴るる所を物に不継ゆへる間  
分別は出さぬ可出事なり

一 孝家諸人の勝多る者「治世」を嫉を更へ  
事なり又「乱世」を極別致貴殿事也依を  
之力も日増高禄より成事也治世を左を  
不有なり本此数万本有内より一本の勝を  
生い延ひるる「大風」強く高り風折は成ふなり  
治世と乱世人の心黑白の遠あるなり然しハ  
不考の量し者貴美と云をたしは事事物物  
よりなり也——まを心可方多なり

一 武門者一「う」惟事「淫」礼あり色欲禮物を換  
るなり也——<sup>實</sup>實<sup>實</sup>實<sup>實</sup>癡の「毒」皆此由より出るなり



あり申すも大將多るもの力を亡し一死を招謀  
を招し他人に被問本心する事古代不々御軍  
諸物ありまきく者も後世に死の事あり

一人を責め其の生憎みありまきく事より交しハ  
赤り如きといへる生憎みありまきく事より交しハ  
一際三込まきく道に泥の地より方々泥の地より  
公祈を清き花咲佛花より用ひらるる此心荒  
知る時を苦悪く生れまきく極る徳人能きまきく  
教へ悪くまきく教ふるまの事一統しとも多き悪  
事斗印者まきく事之乞を可正盡の政事荒

押す時ハ内々悪性ありまの如く出をり石叶しそ  
年月新去々厚きまきく

一浦多々あり鯨有る沖を先子見付り者川上  
より者半分残り半分ハ上へ取上まきく向くの  
者あり者舟人馬行南物入の者と却る村方面  
窮迷惑と難ありまの此末者の鯨有るまの生  
村方面百姓を不残有る者鯨の留人斗改ま上  
二下ハ多分修時の事より有る浦多百姓を  
為故し中付れ百姓を力分言下と接まきく故に王  
一朝何程々と配分割合各甲乙様より致ん



此先ノ上ノ舟門上ノ者四々一丸一ツハ残リ存シ通  
 配分可然ハ扱又存不中内流ミを以テ之ノ上ケル分  
 ハ銘ノ毎甲乙配分知シ事一不此後一ノ後製  
 一軍用ハ柄干二年ヲ毎年ノ舟圓玉テ中ハ一カ一カ世  
 ホノ多中ハ陳一砌一人一舟一粒ヲ為柄干中ハ咽ハ乾ミ  
 為事申如キハ大ニ揚ガル生カヌル数年ノ  
 汝ヲ古キハ強ク是柄干を以テ置玉可然キ必以  
 無尖金柄干向一ノ中付為柄干玉中ハ  
 一四ハ一二年ヲ毎年為最盛者ヲ一ヲ能干之是モ  
 年一圓玉一ツハ陳中一ハ汁葉ノ一多一ハ一ハ  
 一柄干三人分ハ汝中ハ由強ク強キリを以テ不中由キ  
 一大小一通ヲ毎年調為柄干圓玉一ツハす人左通刀  
 長サ二尺一寸ヲ三人ノ寸ヲ服給方ニ准シ柄干赤  
 銅陳柄干多シ一右代金大小ニテ扱あツテ  
 出来リ柄干申付右金子細キ人ナリ若キ中ハ九寸  
 五分至又調玉中ハ是ハ柄干ハ中ハ事ハ右代金  
 調玉及リ中交ハ中柄干ハ柄干ナリ  
 不足シ者ハ是ハ一ノ節ハ是ハ量ハ柄干ハ大小ニテ  
 通ハ柄干一ツ有ルヤ末ノ為免柄干付事ナリ  
 自ら新中斗ハ調玉一ツハ柄干ナリ末ノ主人



多々あるに付以ての事一不

一 而して土蔵斗方より貯米由丈更ニ多し概お中一  
甚田所、多々糧ハ軍用才一の品ハ糧米不足  
多し多分其後利事共古記より多く荒  
世多々他色不熟飢饉亦度ニ有し事一不  
々概の品一家中、勿論百姓共此可救主ハ而そ  
中身子感感カ一 此世の常一用におき又この方事  
なり此貯方一朝一夕の掛を以て米益りる所  
為余と通儀約減情中付る事一をハ必由平生  
方知と心得取由所ハ事ハ以の介ハ事ハ不無事

致方を先是あり事一重ニ一方に致

一 然内其方を助は米益少及後通儀之及事通儀  
人馬、障米の枝ハ不及言根柴ニ至一十年  
ある度ハ切拂一戸ハ内ハ者通儀不登上候  
遠く者通儀不登一戸ハ不登根評判一戸致事  
不連年ある度ハ水通不通用ハ水切流水  
根地廻一戸ハ者向後無由所無事を付り概  
一戸中流り事

一 在、大川小川筋ある生一十年ある度ハ切拂一戸ハ  
是ハ洪水あり事ハ水拂通儀川又あつて中ハ者右用











上下之令を夜おぼして申すに忘被お取一ツ申  
寺社奉行の忘被は各々目付役の任役一ツ申  
付此末代に定法に定むるに社家一ツ申  
渡り<sup>難</sup>隆儀約中と申候五穀如就去年  
之<sup>清</sup>米式多し<sup>清</sup>島負を得せし<sup>清</sup>人<sup>清</sup>為し  
事也第一<sup>清</sup>内<sup>清</sup>函<sup>清</sup>作<sup>清</sup>之<sup>清</sup>飢<sup>清</sup>僅<sup>清</sup>亦<sup>清</sup>及<sup>清</sup>飢<sup>清</sup>唱<sup>清</sup>  
之<sup>清</sup>是<sup>清</sup>時<sup>清</sup>候<sup>清</sup>約<sup>清</sup>筋<sup>清</sup>の<sup>清</sup>破<sup>清</sup>子<sup>清</sup>及<sup>清</sup>い<sup>清</sup>し<sup>清</sup>り<sup>清</sup>友<sup>清</sup>並<sup>清</sup>そ<sup>清</sup>左  
様多し<sup>清</sup>申<sup>清</sup>付<sup>清</sup>之<sup>清</sup>支<sup>清</sup>不<sup>清</sup>是<sup>清</sup>迄<sup>清</sup>申<sup>清</sup>五<sup>清</sup>穀<sup>清</sup>成<sup>清</sup>就<sup>清</sup>祈  
禱<sup>清</sup>多<sup>清</sup>し<sup>清</sup>爲<sup>清</sup>在<sup>清</sup>官<sup>清</sup>由<sup>清</sup>見<sup>清</sup>取<sup>清</sup>不<sup>清</sup>し<sup>清</sup>當<sup>清</sup>に<sup>清</sup>右<sup>清</sup>定<sup>清</sup>に  
お<sup>清</sup>取<sup>清</sup>一<sup>清</sup>ツ<sup>清</sup>申<sup>清</sup>右<sup>清</sup>之<sup>清</sup>年<sup>清</sup>中<sup>清</sup>お<sup>清</sup>届<sup>清</sup>以<sup>清</sup>申<sup>清</sup>之<sup>清</sup>様<sup>清</sup>に<sup>清</sup>得

申すおに<sup>本</sup>毎<sup>本</sup>乞<sup>本</sup>口<sup>本</sup>私<sup>本</sup>乞<sup>本</sup>凡<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>申<sup>本</sup>生<sup>本</sup>時<sup>本</sup>の<sup>本</sup>祈<sup>本</sup>禱<sup>本</sup>一  
致<sup>本</sup>多<sup>本</sup>又<sup>本</sup>其<sup>本</sup>の<sup>本</sup>百<sup>本</sup>姓<sup>本</sup>其<sup>本</sup>の<sup>本</sup>中<sup>本</sup>村<sup>本</sup>方<sup>本</sup>に<sup>本</sup>於<sup>本</sup>て<sup>本</sup>お<sup>本</sup>取<sup>本</sup>り  
公<sup>本</sup>細<sup>本</sup>時<sup>本</sup>の<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>ふ<sup>本</sup>一<sup>本</sup>ツ<sup>本</sup>致<sup>本</sup>方<sup>本</sup>向<sup>本</sup>候<sup>本</sup>に<sup>本</sup>共<sup>本</sup>し<sup>本</sup>り<sup>本</sup>並<sup>本</sup>に  
可<sup>本</sup>申<sup>本</sup>付<sup>本</sup>候

一 自<sup>本</sup>分<sup>本</sup>在<sup>本</sup>團<sup>本</sup>之<sup>本</sup>中<sup>本</sup>に<sup>本</sup>於<sup>本</sup>て<sup>本</sup>祈<sup>本</sup>禱<sup>本</sup>而<sup>本</sup>に<sup>本</sup>禮<sup>本</sup>座<sup>本</sup>を<sup>本</sup>焼<sup>本</sup>祈<sup>本</sup>禱<sup>本</sup>  
之<sup>本</sup>旨<sup>本</sup>に<sup>本</sup>自<sup>本</sup>分<sup>本</sup>の<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>一<sup>本</sup>ツ<sup>本</sup>申<sup>本</sup>に<sup>本</sup>三<sup>本</sup>月<sup>本</sup>廿<sup>本</sup>一<sup>本</sup>の<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>供<sup>本</sup>之<sup>本</sup>旨<sup>本</sup>  
回報<sup>本</sup>の<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>下<sup>本</sup>に<sup>本</sup>年<sup>本</sup>既<sup>本</sup>に<sup>本</sup>於<sup>本</sup>て<sup>本</sup>城<sup>本</sup>子<sup>本</sup>大<sup>本</sup>般<sup>本</sup>若<sup>本</sup>轉<sup>本</sup>禱<sup>本</sup>之<sup>本</sup>  
旨<sup>本</sup>回報<sup>本</sup>の<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>下<sup>本</sup>に<sup>本</sup>乞<sup>本</sup>ふ<sup>本</sup>之<sup>本</sup>旨<sup>本</sup>に<sup>本</sup>不<sup>本</sup>候<sup>本</sup>押  
て<sup>本</sup>祭<sup>本</sup>の<sup>本</sup>旨<sup>本</sup>を<sup>本</sup>報<sup>本</sup>之<sup>本</sup>旨<sup>本</sup>に<sup>本</sup>本<sup>本</sup>之<sup>本</sup>勤<sup>本</sup>不<sup>本</sup>別<sup>本</sup>と  
現在<sup>本</sup>に<sup>本</sup>祈<sup>本</sup>禱<sup>本</sup>申<sup>本</sup>一<sup>本</sup>ツ<sup>本</sup>必<sup>本</sup>以<sup>本</sup>候<sup>本</sup>に<sup>本</sup>申<sup>本</sup>す<sup>本</sup>事<sup>本</sup>なり



一 夢見世に神佛を致し心一七〇二  
七〇と断言して余が就て者言て及しるる  
利業の有と事あり此世も業花也と云  
我事あり断言を毎日多言を  
致者少しと云し由ありへ此時亦友佛神も  
無感<sup>感</sup>意別當社信也及此感と云代に秘佛に  
異性扱と号し者賣物回極を成りて信  
心信り不信心四人の利業由方名交事あり  
汝世より人の疎末にお集り神を教ふ不及  
事と云わ我信に言教ある多し是を人非

人と云く人々ありと云てあり左程に人  
法事一府及國窮時に名心は仙系社系思ひ立  
事あり是成無切時の神教と云わて日本に  
神皇を事し平生神仏可致信ふ事あり  
お念教りて鄙下スハ以て法外に事あり  
其知又音も劣多るなり

一 原内密<sup>密</sup>史に女あり実を切害毒害とも  
致りて詮義の上お通無しり右密<sup>密</sup>通の男女  
其村方馬に事あり晒しり上其村方を碎<sup>碎</sup>  
上り一申に城下の名を備備下町中門晒しり







他依之者とお清亦經之上科人、是方御指見合  
神子にて申下、此方古昔方お趣々、其御法抄  
申下、是方見合申下、外方申下、是方不便し  
る、是方見合申下、是方御指見合、是方  
の御あり

一 抄裏付公入、公来り、右人、教宿、是方、是方、  
夫、及、死、命、者、者、は、是方、前、多、抄、を、取、持、  
切、進、致、一、つ、申、付、申

一 家、申、下、右、者、抄、裏、付、申、下、是方、隱、在、  
御、事、者、一、つ、申、付、申、下、是方、是方、是方、二、三

男、お、意、申、下、申、下、是方、是方、是方、  
御、事、根、之、は、右、者、御、事、一、つ、申、付、申

一 是年、より、難、お、知、奉、り、是方、隱、目、付、申、下、  
以、是方、有、り、是方、家、申、下、是方、是方、  
申、下、是方、其、時、に、是方、神、如、し、是方、申、下、  
く、お、色、は、り、是方、申、下、是方、申、下、  
是方、申、下、一、つ、申、下、是方、申、下、  
心、は、申、下、是方、申、下、是方、申、下、  
申、下、是方、申、下、是方、申、下、  
二、三、呼、内、に、是方、申、下、是方、申、下、  
密



一 申すに所由申せり大長久御慶喜申す  
てある人 目録申す方お用一の申す者  
に  
治民下迄

一 百姓共備山申せり向て掛合御越山帳を  
傍へ之一の申す者お多し蓋し新立山と  
申す方備淨土の地是境を立方備  
申すお徳ノ持来一の申す者南山帳  
申す分蓋し  
方備兩年お上り山に可致し是山守  
申す  
申す此申す者お多し又之を申す  
為意趣お起り一の申す方備御推  
一の申す

一 御慶一 此系は長久御慶喜申す  
右御通一 付門一 申すに生帝諸物入方備  
山山守共一の申すに之系上より拂一の申す  
御通一 一方に御通一 若くは御通一 申  
付れ諸大名御境備山と括別遠上事  
一 御通一 御通一 若くは御通一 右斤付御通  
御通一 蓋しに御通一 申す備山と御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通  
一 御通一 一の申すに御通一 御通一 御通



之附録の之條一の申は別人山中一の申は孫  
而も四地山中地民孫を以て一の申は五匹  
打方強し而も重き不届之趣一の申は又  
白山杯と号大勢之勢若一人を押し去る  
以極大勢の人數を上より其勢を西倒  
故人數し方孫にお成るといふは西道者  
為孫いふ一は孫人數し孫坊主  
孫之位一の申は孫の孫者五年一を切進  
故一の申は此東定法おのれ山守共一を論  
去る百姓をくする一の申は孫

一世俗の人を以て法を説と云先人の力  
之を以て心は孫一の致事也若と遠世  
故権威強き者全孫持者言致事多  
一全ク武士杯はた不て者仁信有者  
一の致事仁義の大なる一

一人を貴賤其孫立時ハ五膳を以て一  
一人孫中定慮は或は言法おのれ義一  
あり依る平日五膳の膳の膳を能く  
以事一あり孫を止る事人の見  
止るハ其の不衡心を我の心持を  
自然と



多しをみ物と常と毎に忘事し留事申我  
言至りつとなく我人自申に或自能お止  
る申る也たたり事申し有忍事申しハ  
有留事申し有り想を短意に我方の相款と  
ふ相る情、才一有り  
一 天より口無りして人言はるゝむると云は忍  
共上徳人拾ぶし中事ハ天性天理とて遠  
く変え難しとの有り徳人能く人と申し時能  
く人と相るし一忍るり子里ト云ふ能く能く  
う情事也

一 乱世を年若く者多分多物一有法世の老  
人少物一有事也徳は法世の世格別の遠  
あり若くその血氣は未だ一して丁寧如く  
を面倒し病を了る由不致有年若く勤  
換と百に足へ多し老人の事多し有り依を  
お知し事一此も委り記す事ハ法世の事  
申し後斗如く多し有り軍道の藤古能  
強し事も武芸の操は又入る操無し時を  
第一に若く急を取強き一申事也是れ心付  
ハ事分不入事有致申る有り依を疎め



名は長らく極むる安んず一の家あり兵  
争斗いふ一その第一高田路徒肌を公取  
り一大力の子入の毎キ生鉄炮を斤た一り  
波弁教方格列の船を二つたる一あり是  
少戦を由る虫を不凌と云ある一

一 亦甲之者其難古の由小兵に御討無心之事取  
花乃其難古の者致事也大勢に家中  
一人の費母を極修の申付難古一あり致事  
重難に公法難古の情一あり致事細を難古  
ハ情を不ゆる生事付もあまし事一あり花一應

一 とも空ノ難古を交する致事生家の上先祖より  
由り来る難古事一あり公情一あり致事交する事  
一

一 金子五百兩の軍用金いふ一あり亦先用人お討下  
る土蔵に納む一の申取

一 陳矢四百本の毎年一の申付取  
鉄炮玉大筒より小筒と千の  
煙硝二年の合置一の申取

一 方通自ら勅中毎年申付置一の申取子孫  
に及り申付置の孫自ら定置一の申取



付与官路を継キ付之方有之と爲大急  
病、何時も軍用旅に團是事、官不  
用い決まて有留表申あり

一 去年勸業登年二年以上者年一申付  
り、如何とされも知角年若くは諸  
無多の金錢を盡ふりて有あり、夫  
是との年若も一申付り、之表  
後付年迄者一就事也

一 役人、其年申付之知事書記ハ片  
り、こゝに作し、老衰申付、不  
見合一申付

一 一方、或見合一就之麒麟、老  
二 劣ると云事、阿礼を、見合一  
老人ハ、就事ハ、付之、故物忘  
見合一申付

一 自分多勸下向の旨、旅中旅宿  
り、家中ハ、不及言、回勢、之  
取落之、精<sup>紛</sup>矢物、無し、根、是、  
以、り、熟、一、の、申、付、是、一、不  
考、象、ハ、証、不、盡、中、ハ、一、火、元、を、先、キ、  
撰、極、を、見、て、之、陰、一、の、申、付、之、  
武、官、新、の



このより後、諸君へを立帳多し程了致  
なり。此中換取と定むる由に、この立帳  
旅行し各書中、別て目さしく掛り、家  
中、不及言より、返帰と向より、この申付る迄、  
系勅下向方毎、一、二、三、付る也。大抵、この  
より、布陳換取、一、大義中、後、目録を、一、  
より、極し、申、不、所、お、知、り、申、支、進、を、候、に、  
前後の事、其、より、先、の、後、の、為、多、し、の、故、申、左  
お、知、り、申、を、委、り、申、付、申、也。  
一、後、人、の、日、勤、多、し、在、南、書、日、の、別、限、延、引、有、り

多し、交代、可、致、し、先、書、前、用、向、申、付、り、  
系、以、在、書、中、書、の、備、上、り、前、の、書、中、り、  
限、合、急、用、の、由、書、中、書、を、書、中、書、不、用、向、り  
依、り、延、引、難、成、致、て、有、留、回、役、方、と、  
この、事、与、及、換、取、一、申、付、り、是、書、中、知、り、  
と、由、人、の、より、申、付、り、書、中、書、  
書、中、書、中、書、一、つ、り、

一、候、御、取、方、政、事、致、極、し、依、り、換、取、可、有、  
り、申、付、り、後、能、候、御、取、方、を、莫、大、に、  
之、等、御、取、方、正、人、の、事、子、心、得、り、申、付、り、



金ウカノ語と存也皆自分の為の上ノ者事  
多事にも力一人の塗柱を生テ盡ニ至るは魔  
也人多くなく物會共學し申すは是を法  
人の善惡を中多事力一カノ迷ハ  
自分も人多き事直ニ申す申す不及中ニ  
内レ法氏力一人不随之を一人由力  
存事也死ハ安ん定定ハ我一人の國手  
迷ハ雲暗レ今明鏡と如ク物上少由也  
事多一法集を家能神ハ申す所由也  
大平ニ強レ一ノ事多

一宗中年若ク若任血氣ニ無名生 病力ニ  
成事一守、おや一ノ年若クハ病者作レて  
力ニ成事一不忠不孝と不無致方主人持我  
力我命と心為義以テおなり、多力大切ニ  
甲得情無キ事あり強クを信、お探と申者  
以テお心得遠なり、力を苦多ハ一ノ言主人  
の用事一ノ立為めあり弱キ、由レ強キ理者  
リ是を強弱の二ツ云又斤事ニ弱ク斗  
ハ力先ハ一ノ遠多ク、無ニ強ク之ハ一ノ  
吾も助太刀者一ノ事、武士の及そ主人



よせし共力をよむ一の推定あり

一 家中年若くとも其の諸藝本古の情にお急なる  
 不孝文の情に致す武士多るとも文盲を  
 非るに義可有く少くは徳も亦く一の衆孔子  
 の言ハ方及く通る多し口内めとくより有る  
 り一の徳も行事は心づき有る一の有るは  
 依る一月有る及し會々を主と寄合は  
 軍器物を豫の集はたり先年一と事一は  
 其意お知し物毎よ心づき一のお成りあり  
 古義の蟬一超ハ何程事一超ハ何程の

人ハ利運をい何程成君志を失ふと能く  
 動無一う致義あり一の成り付有る一者  
 一の成り又ハ又能ハ樂一の成り事一付有る  
 朝四ツ時ト晩七ツ時ト考合一の中ハ腹中透  
 不中ハ怪しき夜互にお互一の申ハ馳走ハ  
 前事ハ一歩で毎用より一取ハ折ハ書籍をハ  
 て見義也をい何程の成り一過一の見  
 前事ハ一歩で毎用より一取ハ折ハ書籍をハ  
 知るハ也

一 家申ふ出入不絶事ハ一為政事故と云へ



多し其を自分の心子に有るを以て其の如く  
心持能時、宗子陸事、主事、在りて其の宗事  
あり、宗子不登時、少事、心子あり、立派に  
宗事、もみり、其の言時、諸人の心子、同様に  
宗事、と存あり、此の政事、不登、故、方、出入、由、度、  
此の事、の、自分、此の政事、あり、宗子、兼、此の同、其の  
證、の、細、魚、の、言、「馬、主、と、不、言、事、不、依、  
何年、太平、細、方、正年、熱、睡、毛、籠、と、不、致、  
程、の、心、子、を、存、付、是、を、書、集、の、宗、中、に、不、及、  
言、の、此、心、の、籠、へ、其、を、自分、存、入、行、届、言、得、心、

いふ事、「此、の、能、こ、の、細、事、あり、其、を、全、押、の、心、  
性、者、別、脱、の、事、に、  
一、公、儀、の、政、務、を、書、記、の、事、に、其、用、に、之、を、宗、  
家、子、孫、に、其、を、心、の、遠、為、無、し、と、書、か、る、に、諸、大、  
名、の、宗、氏、名、の、譯、字、と、成、り、其、を、此、譯、代、目、極、と、思、  
召、の、義、と、一、つ、と、為、其、を、全、く、其、を、不、可、有、り、表、  
向、を、是、る、是、の、内、心、を、先、祖、一、分、に、其、を、宗、氏、名、  
所、地、を、是、を、時、の、物、事、に、陸、子、の、事、あり、  
此、の、宗、子、其、大、の、心、を、傳、へ、仰、付、其、を、お、奉、  
不、致、事、に、此、譯、中、上、の、心、を、一、節、重、の、義、也、



有しとてめり一つは仰付に右とて免るべき通  
はし推量一つは是れたゞて後と並方をと進  
可出るあり然ハ上言を省と云ふもの也其  
言めりて是れ討をふすもの上をとり天下  
に大札とて成義ありお極大名の由以  
あり由とて成義ありお極大名の由以  
仰付に右とてめり一つは仰付に右とて免るべき通  
とと仰付に右とてめり一つは仰付に右とて免るべき通  
是れを討の老中一書勅方一入す一の意あり  
一政事の象名録事一書家書一のりあり候御由

お續由政事の象名録事一書家書一のりあり候御由  
の政事又能く致し上下一統の心とて一致お續  
るあり依指是原の政事一書家書一のりあり候御由  
の多め不意多少と不意の御中換毛斗り可  
有るあり之<sup>暇</sup>者能く役より成り遠有り可  
く為る又ハ不意の御中換毛斗り可  
あり又不意付者をおと事由重く成り意  
関の由とて成事一書家書一のりあり候御由  
暇<sup>暇</sup>の者一書家書一のりあり候御由  
可存る名意趣と存指に喧嘩只偏ホ一書



事なり生者不の相と斗りて事なり  
ふ一平境自分の政変悪く故に  
ト多くと多し此來依怙の政事少く  
致以味はる定て家申一と者を可致  
以前この通と其の助もあらず  
りし意趣小者居るに何れも  
此此之相斗一四段この申事あり  
中の語にせしむる自分一人の  
径く其申し不仕せし間無く  
申付とありし也能く効無く  
申事

一 秘古之儀重て申通小兵組討亦大兵  
間敷はる節道具其言子本々藝古致る様  
以告片事心博りて事なりたる是  
テ考て其の理あり相とせし其外  
り無悔急致知情より何義上  
の上を自然と妙もて有る事  
之平竟家申し其のた為に情  
其も知事有る藝事細事  
兵より務事目あり其を  
万



其ノ不至而有力なるは、窮氣却て猫を殺  
と云事あり又仕込の能キ者を一の見立を其の  
妙有りかゆ曲尺合遠小時一と一突に  
殺さるるあり物に鳥類その丈の業至る  
為に後而有たぬ事也勿論人を喰ふ大兵の  
遠斗する大兵、不付事、糞事、ふ熟力、勿論  
不及ぬ事あり初より守衛しを務めしと  
是く多し曰、猫を喰ふ人、我少時不勝  
ト云事、不有あり  
一 合戦ハ大勢小勢ニ不寄と云、支軍、護物あり

又く多し、と云事、孔を政事の居處に依ての  
るりと知し、一、益を主人、政事、能キ時、小勢  
その、士卒、一、命を不<sup>盗</sup>定、一、定、一、主人の  
馬、前、を、働、を、見、系、よ、入、事、と、向、少、時、不、勝  
と云事、有、名、あり、是、を、一、騎、當、子の、兵、に  
の、言、あり、大、勢、を、其、の、主、人、政、事、不、定  
時、一、勢、を、力、常、役、に、斗、心、得、其、按、出、と、出、し、を  
免、や、角、當、り、を、す、り、善、事、也、然、ハ、力、一、由、不  
得、勝、利、を、其、又、必、定、あり、依、て、平、日、を、免、や、角、の  
力、一、勢、を、お、集、り、其、時、亦、強、く、一、事、に



係り政事おとす一は急一統を成る多美  
半ありて有口得事一不

一 中古有大名家中兵隊内中変成の場所  
斗り高、あり上下不心成つ事一為付事  
次第く子孫内表徴におよぶ時主人由心付  
清和の親善一立親を掛る自分内正  
年井續変成事斗之美氏細事あく  
親善大士の利貴之種一細守り強  
一と祈折言を多七々上徳活三つの比多  
想カ 松ふを家中兵隊内の政事一懸る神細

変成之変成之事有とあり氣を能細  
先一人を正とよしを政事正の時ハ寸毫  
尺魔入正不能成変ふ能一細あり全  
疑変多の事善哉ヨイカキくと後を覚サト多し  
善相想カのこくと信心政る正しく一人哉悟之  
之を自然と原因ゆ多の細り目也度業一  
と云変古書よ正く多し

一 聖人少愛ありと云事全く不有左は辛後  
虚後実後と云三つの善あり辛後ハ心氣  
苦勞して勞して多し心あり事を見りあり



虚妄と云ハ不轉成之變を見不吉なる言を  
見ざる實後と云ハ一くまんと一くま後云々  
吉お成後あり是の若ふり有来々事あり  
南代の若者若く祭酌志古事事杯を  
鄙下して不用時名に成来り依る仙神  
信心も舊き故利者もあき事ありト見く  
多り神玉を神をいけ長に法外ありあり  
想を古人の御動一變考時老人の申事  
を<sup>本ノマニ</sup>北清の基に誤り成り一  
城下并内中神社公園廢壞致り

無由以造之修獲一以概一戸什の  
一政事ハ何時由國よりハ持以第一昔より法由一  
代魔由一代と云々又阿事ハ是より南代  
と云々者多々時名と云々多り物を神を不更  
非礼とも西直頭之神宿るとも一も南代  
所及の留年多るとの何々好後事を申公の時ハ  
也也之礼と云々也古時昔に成来り云々ト  
古法も破し新方を好後用ハ時名多り其  
以考事ハ事ハ解り其言ぬともあき其好後也  
好後事ハ諸人批洲致安中云々あり



一人此者こそ無際詰りのあり唯<sup>粹</sup>控と世更との  
是れ別<sup>カ</sup>まをさるる古文字

「よるをよそとて——ある力の世をれとの我をこら  
中む人をもある處——」

此方の人を能く得たり一能く更なる岐事の  
破しは老若より繁り得るは如く知る——

一政事、とあるは然内を免れ角の殺る生の自  
由の更なる誰かをもよとの中身——言の無子細の

新なる時申多るまをさるる南分、お痛一中り  
こころを城下、その他所、との出見世も教多る

お何程由入世居事、まをさるる是れ其より打テハ  
御考の及程法方、とんと可なり均更なる既  
公儀より由<sup>間カ</sup>指者國に入世居と云事、まをさるる  
城下、に勿論、少絶て居更なる時の由主賢人  
振——子正南、まをさるる、に然内、り公入  
お孫を向出、り不ぬとある、——陸を家  
凡そ不意怪存を考、心掛、を倚ある、との多  
この出る、の釋例、大<sup>提</sup>は孔子、堅<sup>石</sup>石と言、邪  
魔、阿、れを我、の一人の堅柱を生、まをさるる  
まをさるる魔を、入、り、事、有、名、を、まをさるる、日月、清、



と一と大樞<sup>チ</sup>世界を照一照く其雲有りて日  
るたり是を拂ふは凡あり物大凡と成ん時ハ  
風換とそ家作を吹倒一或ハ耕作を痛ノ  
是過多るハ不及と一と云ふものあり依て政事  
相成りてハ不登する是皆古人の中動也一  
りあり利口振る孔子の及を先王立物  
急教一ても者一の魔の一入不入格一仁  
神ハ祈誓を掛る一入一不入格一仁  
二一の事あり治世ハ鬼由角由第一流  
世にお成り大智の家作一隨不持と其事由

用一立一その方多あるを其時ハ大なる  
利を失い主人切後断絶一入一交う  
為度ハ政事向申置事一日本玉治多ク  
小至美ハ政事有者一而已是ハ時を去  
ハ上下共為金錢の小大難悟極意て及竟  
世ハ法不能ハ心相覚悟一の有事あり又法人  
難有政事と云時ハ礼行ても家中一人一  
常子あらぬ者ハ不有者一たより大主事ある  
一

一古義ハ情起を忘る古法を捨て今更政の



をん者として新方を用る者とは違ひの味やう  
道中より不知事請玉一統より身録如くする  
を用る時名する町人百姓時に控上候事  
ある時の風俗は世の中あり諸大名の古法を  
不用時に家の滅亡と心得る候一はるのつゝと  
あれは先年一石抱候二百石三百石成の子石又  
二石子石を多抱候ものあり文武為務者の  
事ある一被者を吟味の上を立置多る  
官法あり今又五十石百石を多抱候新系のみ  
淺きより富を新方を立てて重を用る事候立

有る一被者あり大禄を多抱者とし小禄を  
多抱者とし其の量先是より一知り人  
侍に何方より其の量候より禄を一の取事  
なり

一 日月ハ大子世界を照し一輪ハ無分神由婦人  
土を照し一輪ハ下り一輪ハ上隔あり其の事  
あり自分一玉の儀内中、存入通名格致は  
号、<sup>雅</sup>隆 <sup>本ノマシ</sup> 下と未川石事ハ免角其節  
故と存あり下、其を存入お届り候是以上  
上よりあり



一子其無急悲<sup>子</sup>南<sup>之</sup>視<sup>ハ</sup>一<sup>一</sup>視<sup>ハ</sup>不孝<sup>ノ</sup>  
考<sup>ノ</sup>子<sup>其</sup>ハ有<sup>リ</sup>と云<sup>ハ</sup>依<sup>テ</sup>先<sup>進</sup>之<sup>視</sup>不<sup>孝</sup>  
之<sup>有</sup>之<sup>ハ</sup>申<sup>出</sup>報<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>不<sup>孝</sup>  
ハ<sup>ハ</sup>官<sup>ハ</sup>度<sup>ハ</sup>在<sup>ル</sup>目<sup>ハ</sup>安<sup>ス</sup>お<sup>ハ</sup>一<sup>一</sup>官<sup>ハ</sup>  
不<sup>孝</sup>之<sup>者</sup>兼<sup>テ</sup>惡<sup>性</sup>之<sup>者</sup>有<sup>リ</sup>有<sup>リ</sup>  
書<sup>付</sup>入<sup>一</sup>申<sup>出</sup>在<sup>ル</sup>惡<sup>性</sup>之<sup>者</sup>有<sup>リ</sup>  
妻<sup>子</sup>の<sup>恨</sup>を<sup>存</sup>せ<sup>分</sup>致<sup>動</sup>由<sup>お</sup>申<sup>出</sup>左  
ハ<sup>ハ</sup>其<sup>ハ</sup>村<sup>方</sup>國<sup>家</sup>お<sup>成</sup>一<sup>一</sup>官<sup>ハ</sup>目<sup>ハ</sup>安<sup>ス</sup>お<sup>ハ</sup>  
科<sup>人</sup>之<sup>ハ</sup>義<sup>ハ</sup>無<sup>シ</sup>科<sup>人</sup>修<sup>養</sup>不<sup>出</sup>為<sup>ス</sup>  
申<sup>付</sup>之<sup>ハ</sup>有<sup>リ</sup>子<sup>細</sup>煩<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>交<sup>法</sup>を

致<sup>シ</sup>若<sup>生</sup>と<sup>等</sup>キ<sup>ハ</sup>申<sup>付</sup>也  
一<sup>一</sup>算<sup>術</sup>の<sup>妙</sup>言<sup>ハ</sup>日<sup>月</sup>の<sup>行</sup>及<sup>テ</sup>斗<sup>口</sup>そ<sup>く</sup>日<sup>官</sup>  
を<sup>考</sup>へ<sup>知</sup>る<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>曆<sup>の</sup>要<sup>ナ</sup>リ<sup>ハ</sup>能<sup>ク</sup>天<sup>地</sup>の<sup>事</sup>  
子<sup>ノ</sup>を<sup>考</sup>知<sup>ル</sup>又<sup>ハ</sup>妙<sup>ナ</sup>然<sup>レ</sup>年<sup>ノ</sup>之<sup>豊</sup>  
凶<sup>を</sup>能<sup>ク</sup>考<sup>知</sup>之<sup>ハ</sup>是<sup>レ</sup>曆<sup>の</sup>要<sup>ト</sup>シ<sup>テ</sup>  
公<sup>儀</sup>ハ<sup>以</sup>祈<sup>フ</sup>申<sup>上</sup>リ<sup>テ</sup>萬<sup>民</sup>為<sup>テ</sup>危<sup>懼</sup>の<sup>由</sup>禍<sup>ハ</sup>  
も<sup>ハ</sup>有<sup>リ</sup>有<sup>リ</sup>唯<sup>ハ</sup>日<sup>月</sup>の<sup>合</sup>斗<sup>リ</sup>要<sup>ト</sup>シ<sup>テ</sup>  
日<sup>月</sup>の<sup>行</sup>道<sup>ハ</sup>算<sup>術</sup>不<sup>足</sup>整<sup>ル</sup>事<sup>ハ</sup>有<sup>リ</sup>故<sup>ニ</sup>  
又<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>之<sup>算</sup>之<sup>難</sup>也<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>知<sup>ラ</sup>レ  
多<sup>ク</sup>其<sup>知</sup>之<sup>ハ</sup>心<sup>を</sup>求<sup>ム</sup>心<sup>と</sup>一<sup>致</sup>リ



まゝ人車又凶年ありて米穀貯けられん事  
ハ時の主人奇量の可非否より見るに  
一自分余勅下向と旨歩履水珍に先公を  
次之家老共一列用人共一列表役人等既  
一列諸物既詰まり一列右左居間留守  
中の事等由りお勅後一列申渡り代  
官法心付て申せ

一余勅下向道中旅行と旨堂一度々駕籠  
服者大儀中酒于菓子具て申れ又旅中  
惣回務の者共酒二度々毎日具て申せ

陸奥約中ト是より義ハ為居費ニ成り  
惣て旅中斗りト何れも平生共ニ事を付  
人の心を慰めたり自分平日の勅下ハ  
由是勅人の無事あり無勿辨毛  
日月の勅下を一つ見ん

一學文誌本藝古ハ氣根利根黄金と右ニ根  
不接時ハ不集と云然共我ハ好々事と云  
用之事より其根出返原もなく行り  
お情目を善く者有り然ハ人不幸根ト云ハ  
無きものに見人多り思出をてて年中



合身半斗致一居我ハ亦身成とそふく  
自々を重々送る事ハ宜しき勿辨事あり  
其教実のり萬民助命する事可は月ノ世  
障照一勅臨ふ故の事あり暖上若く  
業花を樂と何ノ層と云事ハかなき者ハ  
天罰不知の人外と云事あり夫を憐の  
病力ハ是能もあきまきり淫世目ハ度末世  
ノ女程諸玉ノ人汝身ノ婦人一ツ申ハ然レ  
時ハ仁義の道ハ汝身ノ病ハ悟番ノ者利運ハ  
時名と可成少官金後ハ必以無量ノ石を前

半如業子ノ致事一と心ねるハ一の能事あり  
然レ一ノ之名ハ悟番ノ者ハ婦人ト申ハ一ツ者事  
あり凡ん去くハ志とくハヤ一と人ハ  
あり

一程ノ其登城所用向義官あるハ之を以て申候ハ  
是ハ考案交代ノ事支ハ故有通並そお心家  
中ノト候ハ誰カ者も無席一用向義義之  
全ハ私用ヲ重シク義不々有ハ力分重キハ力  
大ニ三ニ哺を吐ニ握尚其云平生私用を  
重ツるもの業一ノ名ハ南以用ノ不立支







弓 馬 鎧 鎧兜 繩

小表 鍔 本ノミ 拵 長刀

大筒 書札 職 原カ 物寄束付

儒者

右ノ通師範ノ者其致仕情事断絶拵鎧ニ  
お傳一致ハ知能天文所學連ノ者其將  
基也是ハ解力ト云ハ致仕多ク磨石一ツ成  
義之世の中ニ可有業多ク致仕不可控  
あり

右師範ノ者其法役人共ニ諸人ニ与用子付

鎧ニ其ノ層有年ト云ハ上見ぬ鎧ノ人ニ  
人ニ其ノ見下ニ勤む時ニ威勢斗リ能  
見ハ主人ノ為不戒子ノ惡事申折ニ可  
義事一思事一思リ辛勞一ニ勤ノ或  
人ニ其ノ勤役中ハ其事ニ其諾ノ勤  
事有ハ其者自分ト云ハ宜事其義ト云ハ  
事

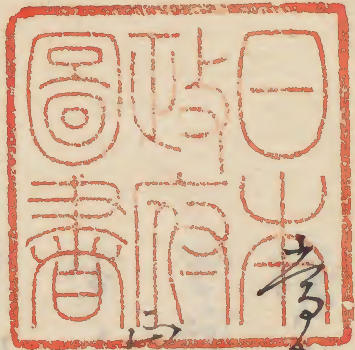
一連年其事ハ心をとク一書記ニ其角控ハ  
時ノ主人ハ其事ヲ申折ハ其ノ法役人  
ニ其事ハ其ノ事ニ其法役人ニ其事  
ハ其事ハ其ノ事ニ其法役人ニ其事



全う自分より思遠」皆力有り、既に大船に  
楫一本、水面上自由と致し、海と云ふれば、以人  
と曰ふより、舟は是、何程能くも楫に痛むる  
時、舟自由と走り、事不成と云ふの政事、由た  
のこり、一諸般人、其書も、是の由、時の人  
思、味、不、り、政、を、家、中、に、不、及、云、に、所、由、中、に、細  
る、り、不、及、者、物、を、楫、を、の、是、者、も、所、由、の、要、と  
等、り、力、も、一、人、の、力、に、止、り、事、も、一、人、の、  
力、に、止、り、一、方、政、を、ぬ、る、事、も、一、人、の、力、に、止、り、山、の  
隈、も、一、人、の、力、に、止、り、

右一冊、此書代、一子、お傳、する、諸、本、一、統、業  
花、を、本、と、一、者、子、長、に、時、言、お、傳、事、も、一、人、を  
富、家、叔、子、孫、と、云、り、公、將、遠、出、る、者、之、時、に、自、分  
と、一、人、を、本、と、一、者、子、長、に、時、言、お、傳、事、も、一、人、を  
致、平、等、事、記、り、代、に、公、指、一、可、と、致、  
公、儀、に、政、事、古、裁、と、云、り、ま、る、書、入、り、事、も、一、人、  
用、し、る、り、を、公、將、遠、出、る、者、之、時、に、自、分  
中、に、一、人、の、力、に、止、り、事、も、一、人、の、力、に、止、り、  
義、に、修、と、ん、付、り、事、も、一、人、の、力、に、止、り、  
申、ね、子、孫、と、云、り、本ノマ、仁、徳、生、は、是、の、由、に、お、致、





此書之書教一多多指口指不用時也

德四甲午年八月二日

紀井中納言

判

紀井宰相殿

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

明治十一年五月以德川茂承藏本謄寫

校合





